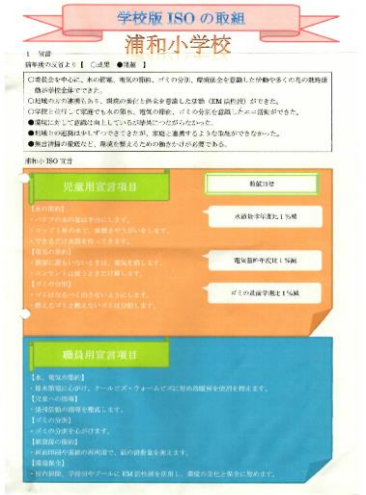
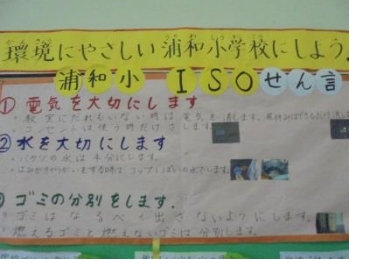


平成 2 8 年度 学校版環境 I S O への取組 概要報告

管内	市町村	学校名
天草	天草市	天草市立浦和小学校

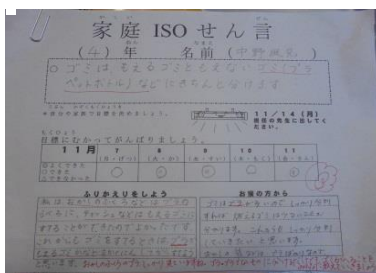
1 取組の概要

項目	活動の様子（写真）	取組の実際
<p>宣言</p>	 <p>「浦和小学校版 ISO 宣言」</p>  <p>「環境委員会作成の浦和小学校 ISO 宣言」</p>	<p>昨年度の取組の成果として次の 3 点が挙げられる。1 つ目は、委員会活動を中心に、水の節約、電気の節約、ゴミの分別、環境保全を意識した活動や花の栽培活動が学校全体でできていたこと。2 つ目は、地域の方からの協力もあり、環境美化・保全を意識した EM 活性液を使った清掃活動に取り組むことができたこと。3 つ目は学校と並行して、家庭でも水の節約、電気の節約、ゴミの分別を意識したエコ活動ができたことである。</p> <p>一方、昨年度の取組の課題としては、以下の 3 点が挙げられる。まず、環境に対して意識は向上しているが、結果につながらなかったこと。次に、環境保全の地域との連携はある程度できていたが、家庭と連携する取組は十分でなかったこと、そして、無言掃除の徹底などを含め環境を整えるための働きかけが今後も必要であるということである。昨年度の反省点を考慮して、本年度の浦和小学校 ISO 宣言を定め、取り組むようにした。</p> <p>本年度の浦和小学校版 ISO 宣言の数値目標は、「水道量昨年度比 1%削減」「電気量昨年度比 1%削減」「ゴミ量前学期比 1%削減」と設定した。また、昨年は環境教育への地域人材活用に取り組んで成果を上げたので、引き続き、本年も地域の人材を活用した環境教育への取組と、昨年度課題となった家庭への啓発の点から、家庭の環境教育に対する意識を高める活動に取り組むこととした。</p> <p>【児童宣言項目】</p> <p>浦和小学校版 ISO 宣言の児童宣言項目は、以下の内容である。</p> <p>○水の節約 バケツの水は半分にする。コップ 1 杯の水を歯磨きやうがいに使用する。水筒を持参する。</p> <p>○電気の節約 教室に誰もいないときは電気を消す。使わない時はコンセ</p>

		<p>ントを抜く。</p> <p>○ゴミの分別 ゴミはできるだけ出さない。燃えるゴミと燃えないゴミは分別する。</p> <p>【職員宣言項目】 職員宣言項目は、以下の内容である。</p> <p>○水や電気の節約 節水節電に心がけ、クールビズ・ウォームビズに努め冷暖房の使用を控える。</p> <p>○児童への指導 職員総体として清掃活動の指導を徹底する。</p> <p>○ゴミの分別 ゴミの分別を確実に実践する。</p> <p>○紙資源の節約 両面印刷や裏紙の再利用を積極的に行い紙の消費量を抑える。</p> <p>○環境保全 校内清掃、学校田やプールに EM 活性液を活用し、環境保全に努める。</p> <p>以上のように児童宣言項目と職員宣言項目を分けて明確にし、児童、職員への啓発を図った。また、学校の宣言目標を配付し保護者にも啓発を行った。</p>
<p>行動</p>	<div data-bbox="284 1256 647 1476" data-label="Image"> </div> <p data-bbox="384 1491 552 1525">「節水の取組」</p> <div data-bbox="284 1697 660 1944" data-label="Image"> </div> <p data-bbox="384 1973 552 2007">「花の苗植え」</p>	<p>1 節水、節電、ゴミの分別の取組</p> <p>節水については、毎日の歯磨きをコップ 1 杯の水で行うこと、手洗い・うがいをするときには必ず水道の水を出しっ放しにしないことを目標にした。</p> <p>また、節電については、使い終わったらコンセントを抜くことや昼休みなどは電気を消すことを目標にした。ゴミの分別については、燃えるゴミと燃えないゴミの分別を目標として推進した。昼休みに委員会が中心となってエコパトロールで点検を行い、児童の意識を高めることができた。</p> <p>2 全校での花の栽培</p> <p>児童に環境に関心を持ってもらうために、花壇に花を植え、肥料に EM 活性液を使って育てる活動を行った。また、「笑顔の花を届けよう大作戦」で、一人 2 鉢の花を育て、お世話になった地域の方々に配る活動を推進した。環境教育を通して、心を育てる教育の一つとして取り組んだ。</p>



「地域の方との学習活動」



「家庭版 ISO 宣言の取組」



「朝のボランティア」

3 地域や家庭と連携しての環境保全活動の推進

EM 活性液を使用した清掃活動の推進を図るとともに、5年生の総合的な学習の時間に、EM 活性液を使った環境保全活動の学習を位置付けた。これは、地域人材を活用した教育活動となり、全校児童の環境保全への意識を高める機会となった。

家庭との連携については、まず、地区懇談会で保護者に浦和小 ISO 宣言について理解を図り、家庭で取り組む機会を定期的に行うことを周知した。そして、家庭版 ISO 宣言を各家庭で決め、学期毎に取り組んでもらった。それぞれの目標を決めて取り組んだことで、家庭への啓発ができた。保護者の方からは、「限りある資源を有効に使うことで、物の大切さや地球環境について家庭でも話し合いをしています」や、「家族で決めて自分たちでできることを頑張った。続けることが大切なので家族で努力していきたい」等のコメントが寄せられた。少しずつではあるが家庭の意識も高まっていると考えられる。

4 朝のボランティア活動

児童が主体的に環境を良くしようという意欲を高めるために、環境委員会の呼びかけで、縦割り班活動での朝のボランティアに取り組んだ。まず、児童にアンケートを取り、朝のボランティアをどのように進めていくのかを考えさせた。そして、縦割り班を中心として取り組んでいくことを班長会議で話し合い、決定した。そのため、縦割り班の班長は一人一役で朝のボランティアに必要な役割を担い、協力し合いながら取り組むことができた。高学年の意識が高まり、低中学年の世話をする姿や草取りの仕方を教える姿も見られた。

記録



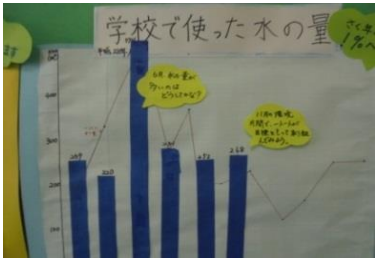
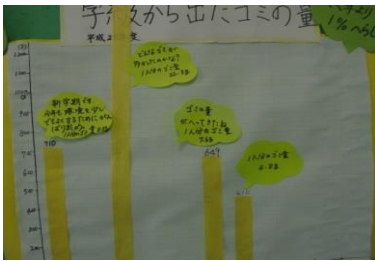
「エコパトロールチェック表」



「月毎の水、ゴミ、電気使用量」

環境委員会を中心に毎日チェックし、エコパトロールファイルに記入した。そして、1週間の結果と改善点を毎週月曜日の給食の時間に発表したことで、児童自身が自分の行動を振り返ることができた。また、月毎の電気、水道、燃えるゴミの量を環境掲示板にグラフとして視覚的に示し、「どうして減ったのだろう」「なぜ急に増えたのか」等、児童が見て考えることができるような掲示の工夫を行った。

各活動については、写真を記録として残したり、学級通信で啓発してもらったりする機会を設けた。

<p>見直し</p>	 <p>「学校で使用した水量」</p>  <p>「学校で出たゴミ量」</p>	<p>「水道の水量」は、前年度 6 月より少し増えているため、どうしてこの時期に増えたのかを児童に問いかけるコメントを入れたり、委員会の時に話し合ったりして考え、委員会で啓発を行った。</p> <p>「電気量」の変化については、昨年度より増えているものの、本年は、10 月まで気温が高い日が続いたり、英会話科の授業が始まり、授業で、ICT機器の活用をする回数が前年度より増えたことが要因として考えられるため、環境に対する意識の低さが影響しているとは考えられない。</p> <p>「ゴミの量」については、これまでの変化を見ていると年度当初一人当たりのゴミの量が 22.3 グラムであったのが 11 月現在では 4.8 グラムになっている。ゴミの量調べの週は特に学年で声を掛け合って分別を行っている学年もあるため意識が高く、ゴミの量の減量につながっているのではないかと考えられる。</p> <p>学校だけの取組で終わることがないように、家庭 ISO 宣言の取組の終了後には、各学年代表児童の家庭 ISO 宣言の取組や保護者のコメントを伝えたり、掲示したりして児童の意識向上に努めた。</p>
------------	--	---

2 成果と課題

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none"> ○委員会活動を中心に、水の節約、電気の節約、ごみの分別、環境保全に対する呼びかけ、花の栽培活動等への取組が学校全体でできた。 ○地域の方の協力で、環境保全を意識した活動（EM活性液の活用）ができた。 ○朝のボランティアも縦割り班の班長を中心に話し合いをして実践することができた。そのため、自主的に環境美化に向けて活動する意識を高めることができた。 ○家庭と連携し、家庭版 ISO 宣言をして実践し、振り返りを行うことで家庭での環境 ISO 活動の取組について啓発することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ●環境に対しての意識は高まっているが、家庭生活等の日常に生かすまでにはいたっていない。（11月の家庭版 ISO の取組保護者のコメントの欄から） ●子どもが主体となり、委員会同士が協力した取組が少なかった。 ●充実した取組を行ったにもかかわらず、水道、電気の削減が目標に達成していないため、目標の見直しが必要である。